

千葉菌類談話会通信 29 号 目次

■ 私ときのことの繋がり	古川 久彦	4
■ 妖怪マツカサキノコモドキはでんぐり返る！	萩本 宏	9
■ 熱帯性きのこ “オオシロカラカサタケ <i>Chlorophyllum molybdites</i> (Meyer : Fr.) Masee” の日本国内での分布の拡大状況 (要旨)	河合 繁好	18
■ 南房総のアミヒカリタケ	山本 充弘	25
■ 柏市増尾城址公園で見られるきのこ	氏家 文憲	28
■ きのこの放射能測定値 (その2)	篠崎 正一	32
■ 北海道で見られる腐生性イグチについて	村上 勝利	34
■ 茶碗型子囊菌キノコの子嚢胞子放出の仕掛けを考える	大久保 泰和	36
■ 妖怪松茸物語	萩本 宏	42
■ 今年味見したきのこ — アメリカウラベニイロガワリ・シャカシメジ・マントカラカサタケ —	藤田 正子	50
■ 房総きのこ今昔 宮様方のハツタケ狩	吹春 公子	52
■ 2012 年度行事報告	吉田悦子・吹春公子	53
■ きのこ・かび 関連図書の紹介	吹春 俊光	57
■ きのこ歳時記 10 — 茸を食べる —	今野 英山	66

表紙に寄せて

イグチを描きました。ムラサキヤマドリタケ、アメリカウラベニイロガワリ、ヤマイグチ、ベニイグチ、セイトカイグチ。管孔をぽつぽつ入れて、柄の網目や鱗片をびっしり描くとき、良い気持ちでした。きのこのおめかしです。今年も色とりどりのきのこに会えますよう。

(片山 周子)

